

学年							小笠原村立小笠原中学校 社会科 1年 年間指導計画		
小学校						中学校			
1	2	3	4	5	6	1	2	3	
月	単元名	地理的分野 世界の姿 (6)				単元の系統性	地理的分野の学習の導入として小学校の学習成果(「小学校5年 我が国の国土の様子と国民生活」)を踏まえ、世界と日本の地域構成を主な学習対象とし、世界と日本の地域構成を大観し理解する学習を通して、地域の諸事象や地域的特色を理解する際の座標軸となる視座を養うことをねらいとしている。		
4	学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫		
	1 地球の姿を見てみよう(p.8~9) 2 世界のさまざまな国々(p.10~13) 3 地球上の位置を表そう(p.14~15) 4 地球儀と世界地図を比べてみよう(p.16~17)						つまずきやすいポイント ・大陸・大洋の名称と位置 ・国の位置と国名 ・活用問題・記述問題		
							工夫・手立て ・地球儀や地図帳の活用 ・ICTを活用した授業 ・反復練習や小テストによる知識の定着 ・ワークシートによる応用問題		
評価規準									
知識・技能	○緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などを基に、世界の地域構成を大観し理解している。				思考・判断・表現	○世界の地域構成の特色を、大陸と海洋の分布や主な国の位置、緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。			
	ワークシート 小テスト 定期考査					ワークシート 小テスト レポート 定期考査			
				主体的に学習に取り組む態度	○世界の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。				
					ワークシート ノート 行動観察 自己評価				



学年							小笠原村立小笠原中学校 社会科 1年 年間指導計画			
小学校						中学校				
1	2	3	4	5	6	1	2	3		
月	単元名	地理的分野 世界各地の人々の生活と環境 (10)		単元の系統性	「世界と日本の地域構成」の学習成果を踏まえ、場所や人間と自然環境との相互依存関係などに関わる視点に着目して、世界各地の人々の生活が営まれる場所の自然的条件と社会的条件を関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成することを主なねらいとしている。そうした学習の全体を通して、世界の人々の生活や環境の多様性、それらの相互依存関係を理解できるようにすることが求められている。					
5	学習活動				「わかる」から「できる」授業への工夫					
	1 雪と氷の中で暮らす人々(p.36~37) 2 寒暖の差が激しい土地に暮らす人々(p.38~39) 3 温暖な土地に暮らす人々(p.40~41) 4 乾燥した土地に暮らす人々(p.42~43) 5 常夏の島で暮らす人々(p.44~45) 6 標高の高い土地に暮らす人々(p.46~47) 7 世界に見られるさまざまな気候(p.48~49) 8 人々の生活に根付く宗教(p.50~51) 9 まとめの活動 世界一周旅行を企画しよう(p.52) 10 基礎・基本のまとめ 2編1章の学習を確認しよう(p.53)				つまずきやすいポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 雨温図からの気候帯の読み取り</li> <li>・ 三大宗教の識別</li> <li>・ 活用問題・記述問題</li> </ul>				
				工夫・手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問題演習の繰り返し</li> <li>・ 小テストの実施</li> <li>・ ワークシートによる応用問題</li> </ul>					
評価規準										
知識・技能	○人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解している。 ○世界各地における人々の生活やその変容を基に、世界の人々の生活や環境の多様性を理解している。その際、世界の主な宗教の分布についても理解している。			思考・判断・表現	○世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し表現している。			主体的に学習に取り組む態度	○世界各地の人々の生活と環境について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	
	ワークシート 小テスト 定期考査				ワークシート 小テスト レポート 発表(パフォーマンス評価) 定期考査				ワークシート ノート 行動観察 自己評価	

学年												
小学校						中学校			小笠原村立小笠原中学校 社会科 1年 年間指導計画			
1	2	3	4	5	6	1	2	3				
月	単元名	歴史的分野 歴史へのとび ら (11)				単元の系統性	「小学校6年 我が国の歴史上の主な事象」を踏まえて、歴史的分野の学習の導入として、歴史的分野の学習に必要とされる基本的な「知識及び技能」を身に付け、生徒が、過去を継承しつつ、現在に生きる自身の視点から歴史に問いかけ、歴史的分野の学習を通して、主体的に調べ分かつて課題を意欲的に追究する態度を養うことをねらいとしている。					
学習活動							「わかる」から「できる」授業への工夫					
1 時期や年代の表し方(p.8~9) 2 歴史の流れのとらえ方(p.10~11) 3 時代の特色のとらえ方(p.12~13) 4 テーマを決めて調査・考察しよう(p.14~15) 5 まとめと発表をしよう(p.16~17) 6 地域の歴史を調べよう							つまずきやすいポイント			・世紀での年代の表し方		
							工夫・手立て			・問題演習の繰り返し ・小テストの実施		
6							評価規準					
知識・技能		○年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解している。 ○資料から歴史に関わる情報を読みとったり、年表などにまとめたりする技能を身に付けている。 ○具体的な事柄との関わりの中で、地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けている。				思考・判断・表現		○時期や年代、推移、現在の私たちとのつながりなどに着目して、小学校での学習を踏まえて歴史上の人物や文化財、出来事などから適切なものを取り上げ、時代区分との関わりなどについて考察し、表現している。 ○比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。			主体的に学習に取り組む態度	
		ワークシート 小テスト 定期考査						ワークシート 小テスト レポート 発表(パフォーマンス評価) 定期考査			ワークシート ノート 行動観察 自己評価	



学年							小笠原村立小笠原中学校 社会科 1年 年間指導計画					
小学校					中学校							
1	2	3	4	5	6	1				2	3	
月	単元名	地理的分野 世界の諸地域 (35)				単元の系統性	「中学校1年 世界の地域構成」、「中学校1年 世界各地の人々の生活と環境」を踏まえて、空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、世界の各地域で見られる地球的課題の要因や影響をその地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成することを主なねらいとしている。そうした学習の全体を通して、世界の各州の地域的特色やそこで見られる地球的課題と地域的特色の関係を理解できるようにすることが求められている。					
学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫						
10 ・ 11 ・ 12 ・ 1	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 アジア州をながめて (p.58~59)</li> <li>2 アジアNIESの成長 (p.60~61)</li> <li>3 巨大な人口を支える中国 (p.62~63)</li> <li>4 都市化が進む東南アジア (p.64~65)</li> <li>5 急速に成長する南アジア (p.66~67)</li> <li>6 資源が豊富な西アジア・中央アジア (p.68~69)</li> <li>7 基礎・基本のまとめ アジア州をふり返ろう (p.72) まとめの活動 アジア州の学習をまとめよう (p.72~73)</li> <li>8 ヨーロッパ州をながめて (p.76~77)</li> <li>9 ヨーロッパ統合の動き (p.78~79)</li> <li>10 持続可能な社会に向けて (p.80~81)</li> <li>11 EUがかかえる課題 (p.82~83)</li> <li>12 アジアとヨーロッパとにまたがるロシア (p.84)</li> <li>13 資料を活用する力をきたえよう② (p.85)</li> <li>14 基礎・基本のまとめ ヨーロッパ州をふり返ろう (p.86) まとめの活動 ヨーロッパ州の学習をまとめよう (p.86~87)</li> <li>15 アフリカ州をながめて (p.90~91)</li> <li>16 アフリカの産業と新たな開発 (p.92~93)</li> <li>17 発展に向けた課題 (p.94~95)</li> <li>18 資料を活用する力をきたえよう③ (p.97)</li> <li>19 基礎・基本のまとめ アフリカ州をふり返ろう (p.98) まとめの活動 アフリカ州の学習をまとめよう (p.98~99)</li> <li>20 北アメリカ州をながめて (p.102~103)</li> <li>21 巨大な農業生産力と移民 (p.104~105)</li> <li>22 巨大な工業生産力 (p.106~107)</li> <li>23 新しい産業と生活文化 (p.108~109)</li> <li>24 資料を活用する力をきたえよう④ (p.111)</li> <li>25 基礎・基本のまとめ 北アメリカ州をふり返ろう (p.112) まとめの活動 北アメリカ州の学習をまとめよう (p.112~113)</li> <li>26 南アメリカ州をながめて (p.116~117)</li> <li>27 自然環境と共生する生活 (p.118~119)</li> <li>28 開発の進行と影響 (p.120~121)</li> <li>29 資料を活用する力をきたえよう(実践編①) (p.123)</li> <li>30 基礎・基本のまとめ 南アメリカ州をふり返ろう (p.124) まとめの活動 南アメリカ州の学習をまとめよう (p.124~125)</li> <li>31 オセアニア州をながめて (p.128~129)</li> <li>32 貿易を通じた他地域とのつながり (p.130~131)</li> <li>33 人々による他地域とのつながり (p.132~133)</li> <li>34 資料を活用する力をきたえよう(実践編②) (p.135)</li> <li>35 基礎・基本のまとめ オセアニア州をふり返ろう (p.136) まとめの活動 オセアニア州の学習をまとめよう (p.136~137)</li> </ol>						つまずきやすいポイント			<ul style="list-style-type: none"> <li>・国名、地名、地形名の定着</li> <li>・用語の定着</li> <li>・資料の読み取り</li> <li>・活用・記述問題</li> </ul>		
							工夫・手立て					
							<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図帳・白地図やICTの活用</li> <li>・映像教材の提示</li> <li>・単元の最初に用語調べる</li> <li>・単元の終わりに小テスト</li> <li>・ワークシートによる応用問題</li> </ul>					
	評価規準											
	知識・技能		<p>○ 世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。</p> <p>○ アジア州、ヨーロッパ州、アフリカ州、北アメリカ州、南アメリカ州、オセアニア州の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し理解している。</p>			思考・判断・表現		<p>○ アジア州、ヨーロッパ州、アフリカ州、北アメリカ州、南アメリカ州、オセアニア州の各州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。</p>		主体的に学習に取り組む態度		
	ワークシート 小テスト 定期考査					ワークシート 小テスト レポート 定期考査				ワークシート ノート 行動観察 自己評価		

学年										小笠原村立小笠原中学校 社会科 1年 年間指導計画			
小学校						中学校							
1	2	3	4	5	6	1	2	3					
月	単元名	歴史的分野 中世の日本 (17)				単元の系統性	「小学校6年 我が国の歴史上の主な事象」、「中学校1年 古代までの日本」を踏まえて、12世紀ごろから16世紀ごろまでの歴史を扱い、我が国の中世の特色を、世界の動きとの関連を踏まえて課題を追究したり解決したりする活動を通して学習することをねらいとしている。						
学習活動							「わかる」から「できる」授業への工夫						
1 武士の成長 (p. 64~65) 2 院政から武士の政権へ (p. 66~67) 3 鎌倉幕府の成立と執権政治 (p. 68~69) 4 武士と民衆の生活 (p. 70~71) 5 鎌倉時代の文化と宗教 (p. 72~73) 6 モンゴル帝国とユーラシア世界 (p. 74~75) 7 モンゴルの襲来 (p. 76~77) 8 南北朝の動乱と室町幕府 (p. 78~79) 9 東アジアとの交流 (p. 80~81) 10 産業の発達と民衆の生活 (p. 82~83) 11 応仁の乱と戦国大名 (p. 84~85) 12 室町文化とその広がり (p. 86~87) 13 基礎・基本のまとめ (p. 94~95) 中世の学習をふり返ろう まとめの活動 (p. 96~97) 古代との比較から中世の特色を探ろう							つまずきやすいポイント		<ul style="list-style-type: none"> <li>鎌倉新仏教の識別</li> <li>時代順の錯誤</li> <li>用語の定着</li> <li>活用・記述問題</li> </ul>				
							工夫・手立て		<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の最初に用語調べる</li> <li>単元の終わりに小テスト</li> <li>年表にまとめる</li> <li>ワークシートによる応用問題</li> </ul>				
評価規準													
知識・技能		<ul style="list-style-type: none"> <li>鎌倉幕府の成立、元寇(モンゴル帝国の襲来)などを基に、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったこと、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解している。</li> <li>南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解している。</li> <li>農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。</li> </ul>				思考・判断・表現		<ul style="list-style-type: none"> <li>武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、武家政治の成立とユーラシアの交流、武家政治の展開と東アジアの動き、民衆の成長と新たな文化の形成について、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>中世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>		主体的に学習に取り組む態度		<ul style="list-style-type: none"> <li>中世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</li> </ul>	
ワークシート 小テスト 定期考査		ワークシート 小テスト レポート 定期考査				ワークシート ノート 行動観察 自己評価							
2・3													